

鈴木鎮一著「つまらぬ才能を育てるな！」 Suzuki Method 才能教育No. 189.秋 2014 号、才能教育研究会
2014 年 9 月 15 日発行を読む

つまらぬ才能を育てるな！

1. くり返し行われるところに、才能が育つのです。いいことでも、悪いことでも、同じようにすぐ才能が育ちはじめます。
2. 子供が何かをすると、すぐに「そんなことをしちゃあいけません」また何かをやろうとするとすぐに「また、そんなことを……」と言って叱る人をよくみかけますが、これでは子供は手も足も出ぬことになる。このくらい叱ってばかりいれば、いたずらをしない最も良い子になりそうなのに、事實は、反対で、そういうやり方ではその子供はますます手に負えなくなってゆくのです。
3. なぜでしょう。即ちくり返しの行われるところへは、才能は育ってゆくわけでありますから、そのように叱ってばかりいる親の訓練によって、子供の中に「叱られる才能」がどんどんと成長してゆくためです。
4. 叱られる才能……それはやがて叱られることは当り前のことであって、何とも感じない心へまで育ちます。親の方は、自分がそうした才能を子供に育てていることには気が付かぬために、子供が悪いのだと決めています。
5. 「叱るそばから、すぐにまたいたずらをして……ほんとうに何という子だろう」と一層、いらいらしてくる。
(中略)
6. 自分が子供の中にそうしたものを訓練し育てあげておいて、子供の性格のせい、とより考えない人、それが今日までの親の姿でありましょう。
7. 万能の素質をもった人間の姿をよく理解して下すった人は、このような愚かな育て方をせられないでしょう。
8. 雑草はとらねば、米麦の育つわけはありません。教え諭さなければならぬこと、叱り、矯正しなければならぬことは即ちそれに当たりますが、叱ることの効果が少しもない人間に育てあげてしまっでは、どうすることもできないではありませんか。
9. ヴァイオリンの指導、矯正の場合と同じように、最悪の矯正すべきものの一つを、親が心に定めておいて、これに関する限り一步も譲らず、矯正指導するようにして、平常叱ってばかりいるような下手なやり方をやめましょう。
10. 叱られる才能を子供の中に育てさえしなければ、子供は決して手に負えないような、そうした才能、性格を持っているものではありません。

11. みな親達がつくりあげ、育てあげた姿、環境のままに、子供も大人も育てられるものであります。これが人間の本性であると思います。
12. 矯正するために叱ることも、やむを得ないことかも知れませんが、もう一つ上手な方法は、叱らざるを得ないようなことについては、叱るよりもまず心して親達が正しいことをやって、毎日子供に示してゆくこと、これこそ最も効果ある正しい教育の方法であると思います。環境で育てるのです。
13. 周囲のあるがままの姿に子供は育ってゆきます。
14. 大阪の子供さんが一人も残らず大阪弁になり、東京の子供さんが一人も残らず東京弁になる事実は、善も悪も、美も醜もなく、人の才能は環境のままに育つものであることを明らかに示している、重大な事実ではありませんか。

[コメント]

バイオリン教育の第一人者である鈴木鎮一先生の一言、一言は身に染みる。大切なことばかりだ。

— 2014 年 10 月 6 日 林 明夫記 —